

令和5年度 第1回 阿賀野市総合計画審議会 議事概要

1 会議の概要

日 時：令和5年11月21日（火）午後2:00～3:30

場 所：安田交流センター風とぴあ 3階 大会議室

出席者：【委員】

遠藤委員、佐々木委員、武田委員、永井委員、永松委員、葦澤委員、
野上委員、長谷川委員、吉田委員

【市】

菅原総務部長、山崎民生部長、田村産業建設部長、大橋商工観光課長
酒井商工観光課長補佐

事務局：企画財政課（西瀉課長、長峰係長、天野主事、山崎主事）

2 議事

- (1) 現地視察（安田瓦体験施設かわらティエ -地方創生関係交付金事業-）
- (2) 阿賀野市総合計画の進捗状況について（施策・基本事業評価の結果報告）
- (3) 地方創生関係交付金事業の進捗状況について
- (4) 阿賀野市過疎地域持続的発展計画について
- (5) 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金事業の報告について

3 発言の内容（主な意見等（○：委員、●：市））

- (1) 地方創生関係交付金事業を活用した「安田瓦体験施設かわらティエ」の視察
→対象事業の安田瓦ロードへの現地視察を実施。商工観光課より説明があった後、
展示予定スペースや鬼瓦作り体験スペースの視察を行った。
- (2) 阿賀野市総合計画の進捗状況について（施策・基本事業評価の結果報告）
≪子どもの育成支援の充実≫
○子育てしやすい環境になっているのかの指標が低下しているが、実際に令和3年
度から状況が変わったことが何かあるのか。この種の調査の難しいところではある
が、こういったアンケートは印象で答えていることが多く、何か目に見える形でサ
ービスが低下したのではないのなら、達成できていないと断ってしまうのはどうな
のかなと感じている。
●子育て支援、例えば医療費や保育料の助成など市のサービスが下がったことはな
いが、市民が思い描く子育てしやすいまちには至っていないと感じているものと、
私たちは受け取っている。（民生部長）

○市民のニーズに迫っていくということか。

●ただ、安田地区では安田幼稚園が、笹神地区では出湯保育園がそれぞれ閉園していることも影響しているのかもしれないと考えている。

どちらも閉園時点では在園児童数も少なく、転園も同じ地区の保育園に受け入れてもらえたが、受け入れの幅が狭まったと感じた市民もいたのかもしれない。

(企画財政課長)

《生活に密着した住環境整備の促進》

○市の空き家バンクでは、農地が付随した空き家の取り扱いに苦慮している。農地は農家しか購入することができない関係から、買い手が限られ、空き家のまま残ってしまう。

綺麗に区画された農地ではない、小さな農地であれば、弾力的に非農地認定する等の対応を考える必要があると思っている。

また、都市計画の話になるが、阿賀野市も場所を選定して市街化区域や市街化調整区域を設けてみてはどうか。区域内の農地であれば、農業委員会に対する届け出だけになるので、手続きを簡略化することができる。

●市外化区域及び市街化調整区域の線引きはハードルが高いと考えているが、大都市等ではそういった区域を定めて弾力的に取り扱っていることもあるので、そこも含めて検討させていただきたい。(産業建設部長)

《市民アンケート》

○市民アンケートの実施方法について教えてほしい。対象は20歳以上か。また、回答がなかった人へ何か働きかけを行っているか。

●事務局で紙ベースの質問票を作成し、20歳以上で年代にバラつきがでるよう無作為に抽出し郵送で回答を依頼している。

また、回答を依頼した全員にお礼の手紙を送っており、その中で未回答の方には回答してもらえよう働きかけている。(企画財政課企画係長)

(3) 地方創生関係交付金事業の進捗状況について

《地場産業「安田瓦」を核とした交流人口拡大・就労促進事業》

○令和5年度の話になってしまうが、4年ぶりに「安田瓦ロードフェスティバル」を開催することができた。来場者は3,500人程度で予想よりも少なかったが、天気にも恵まれ、なかには実際に受注につながった事例も、大変いいイベントだった。なお、人数が予想より少なかったことは、同日に阿賀町で狐の嫁入り行列が行われていたことが要因と考えている。

○今年度の安田瓦ロード来訪者数、安田瓦の年間出荷枚数については増加しているのか。

○瓦ロードの来訪者については、正確な人数を把握していないことから推定になるが、増えていると感じている。また、瓦の出荷枚数については、横ばい状態である。

○市内の学校では地域愛を育む教育を進めている。今回視察させていただいた、瓦作りが体験できる「かわらティエ」は、子供たちが地域の地場産業に触れる機会を創出してくれる良い施設だと感じた。これを今後いかに市外の方や市内の若い世代に宣伝・周知するかが重要だと考えるが、どういったことを考えているか。

●道の駅あがのに「駅からカード」というものを設置している。これは市内の協力店舗がはがきサイズのクーポンカードを設置し、それを持って協力店舗に行くとサービスを受けられるというもので、市の入り口にある道の駅から市内を回遊してもらうことを目的とし、実施している。

阿賀野市には様々な観光施設があるが、そういったところを線で結べるよう、この事業が終わったからそれで終わりではなく、これからが勝負であると考えている。

(商工観光課長)

○様々な SNS 等を使った周知も若者に訴求でき効果的であると考えている検討していただきたい。

○視察を通じて安田瓦の雰囲気を感じたが、観光業としてもこういった体験型スポットが増えていくことは、とてもありがたいことと感じている。

体験を通じて作成した鬼瓦が後日郵送されるのも、その期間阿賀野市のことを思ってもらえ、心にも残り、また再訪したいと思うきっかけになるのではと感じている。これからどんどん交流人口が増えていくのではないかと希望を感じることができる施設だった。

(4) 阿賀野市過疎地域持続的発展計画について

質疑なし

(5) 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金事業の報告について

質疑なし